



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ：Change! 2022(7月)・LT(8月)



2021-22年度 会長テーマ「地域と繋がろう・地域に知られよう」

関東東部部長 大澤和子(所沢)「私の地域から世界に広げよう青少年を支えるワイズの輪・和・ワッ！」

東日本区理事 大久保知宏(宇都宮)「私たちは次の世代のために何が出来るか？」

アジア地域会長 Ohno Ben(大野勉・神戸ポート)“Make a difference beyond the 100th”「100年を越えて変革しよう」

国際会長 キム・サンチェ(韓国)“Y's Men with the World”「世界とともにワイズメン」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上松寛茂 / 書記 水無瀬隆三 / 会計 小林道明

直前会長 上松寛茂 / ブリテン 水無瀬隆三・浅羽俊一郎 / 担当主事 太田 聡

今月の主な内容(案)

- ◆会長挨拶 ◆7月例会報告 ◆第1回関東東部評議会報告 ◆さいたまの市民活動を知ろう ◆直前会長一年を振り返る ◆メンバーからのお便り ◆クラブ統計 ◆ワイズダムより ◆今時のユース気質 ◆YMCA便り・小窓から



会長挨拶

浅羽俊一郎



転会したばかりのヒラ会員がいきなり会長。足軽がお殿様に？(イヤイヤ)クラブの諸先輩にご迷惑をかけるよう努力します。お気付きのとおりに口柔体硬、事務能力は改善の余地ありすぎです。それでも会長を引き

き受けた以上は会長方針に沿ってやれるだけやりますし、分からない時は皆さんに相談します。さて今期(埼玉クラブ創立45年)のテーマ(上記)は私がワイズ全般について思っていることを表現しました。ワイズは良いことをしても自慢せず、満足感を内輪で味わう。外部に拡めるでもなければ、つながるにも積極的でない。これは日本の中年男性グループの典型。それでいて会員を増やそうと言う。社会に揉まれて培った知見やコネをもっとワイズ活動に活かしたいもの。チェンジ2022や100周年キャンペーンに当クラブなりに対応したいですが、まずはクラブ強化、ゲスト増員、知名度アップに努めたいですし、そのためにも他クラブとの交流も促進したいです。と同時に何のためのワイズかという「そもそも」を考えていきたいです。8月28日LT委員会主催のズーム「カフェ・ド・フレッシュワイズ」では他クラブのメンとワイズの体質、組織、会費など「そもそも」の話を忘れてないメンがいるのを知って嬉しかったです。ワイズは老いても盛年！頑張りましょう。

今月の聖句 実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、ご自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。(エフェソの信徒への手紙 2:14-15)

私の心に触れた言葉

小林道明

「…心は誰にも見えないけれど、心づかいは見える。思いは見えないけれど、思いやりは誰にでもみえる…」(埼玉県出身の詩人)

高齢になると個性が強くなり、妻をはじめ他人との会話でごちなさが増えて相手を傷つけてしまう事が多くなってきた。なんとかせねばと考えていた時、この詩に出会った。相手に伝わる「心づかい」と「思いやり」を常に考え行動し、余生を楽しく過ごす予定です。

9月例会案内

日時：9月27日(土)午後2時～4時

会場：「き咲きてらす」(浦和区木崎3-6-6)

モットー・ソング

今月の聖句・一言

ゲスト紹介・誕生日/祝い事

* 大澤和子関東東部部長の公式訪問があります。

卓話：太田聡氏(浦和YMCA館長)

「今YMCAは何を求められているか(仮)」

YMCA ニュース・小窓から

懇親のひと時：交わりのひと時です。

閉会点鐘

◆ 7月キックオフ例会報告 (浅羽)

7月26日(月)午後2時-4時「き咲きてらす」で今期の最初の例会を開催。出席者は当クラブメンバー上松、小林と浅羽会長。ゲスト：堀和光二郎氏、ビジター：森下千恵子氏(川越クラブ)計5人。キックオフ例会ということで改めて会長の方から事前に配布した方針・活動案について意見交換した。スクリーンに映した資料を参照しながら、昨年の活動を振り返り、埼玉クラブの今後、地域活動に渡って活発に意見交換できた。小林メンから昨年の会計報告があり、コロナ禍のために活動が中止された分、特例として年会費を25,000円にしたことを確認。今期も事態が変わらない以上、同じ金額でスタートすることにした。(20-21年度末の繰越金は279,391円)ゲストの堀和氏は川口在住で、会社経営を終えた後は長い間ボランティア活動に励まれ、近年はさいたま市市民活動サポートセンター(パルコ9階)で助言指導されてきた。「き咲きてらす」の準備には当初から浅羽をサポートしてくれている。ワイズとは異なった視点からの市民活動についての考え方はとても参考になった。また、森下メンが体験など交えて最近感じていることなど紹介。浅羽会長は「き咲きてらす」の幹事会が立ち上がり、今後地域活動を進めていく、ワイズとしても応援してもらいたい、と報告。他にもYMCA支援のあり方、キリスト教のことなど多岐に渡る話題に2時間はアツと言う魔。最後に8月は23日の通常例会日を延期して30日に特別納涼例会を実施することを決めて散会した。

◆ 第1回関東東部評議会：主な内容と感想 (浅羽)

7月31日(土)午後1:30~4:30、ZOOM形式で大澤部長年度の1回目の部評議会が開催された。リモートで11クラブから43メンが出席。懐かしい面々の元気な尊顔をスクリーン越しに拝見。新生「千葉西クラブ」も嬉しい登場。アジェンダに沿って次々と報告事項、協議事項をこなす。ZOOM2年目で要領を覚えたメンが増えたことはコロナ禍(COVID19)とはいえ喜ばしい。昨年度の会計報告、今年度予算等承認。今年度からロスターが廃止になりデジタル化するので、ロスター代削減し、ロスター掲載広告がなくなる。埼玉クラブは衣笠メンが区の書記に加えて、部のユース事業主査をしている。関東東部に元リーダー達を核にユース・ワイズ作りを提案しているので覚えてもらいたい。浅羽からはワイズ100周年記念事業のアピールあり。最後に部大会のアピールあり。会場は武蔵豊岡教会(ヴォーリス設計)、記念講演は萩原なつ子氏(立大教授)「人生100年時代を生き抜くため」。埼玉クラブからは4名出席。

今後の主な行事日程

- 9月11日-12日 YVLFをズームで。
- 10月2日 関東東部部大会
- 11月20日 第2回評議会。

◆ さいたま市の市民活動(1回目)

「元気アップネットワーク」

2011年(H23)12月にスマイルハウスと浦和スポーツクラブがシニアの健康づくりのための会議で協議の結果、翌2012年、地域のボランティアの方々や事業所に声をかけをしてさらに話し合いを重ね、2013年2月に元気アップネットワークを発足しました。現在約40-50名の地域の元気な高齢者(ほとんど女性ですが)が毎月4-5回、3つの公民館(領家、大東、南箇)で小一時間、毎回違う講師の指導のもと、元気に身体を動かし、脳トレにチャレンジし、時々専門家のわかりやすい健康のレクチャーを聴いて過ごしています。代表の井上誠さんによると当初は数人しか集まらなかったそうですが、私が昨夏参加した時は50人くらいいて驚きました。(もちろん避3密)高齢者が励まし合い、繋がり合う大切な場で、初参加者は皆さんの前で簡単に自己紹介し交わりに入ります。ボランティア・チームの皆さんが手際よく受付・会場準備・終了後の消毒と後片付けと実にフットワークも軽やかに協力します。コロナ禍で家に閉じこもりがちの高齢者だけに、このような市民活動は大切です。なのに世の男性諸君は何処で何しているのでしょうか。奥様のいない自由なひと時を満喫ですか? (浅羽記)

◆ 新企画：リレーシリーズ???

「ビフォーワイズ・アフターワイズ」

新企画案

◆ 今時のユース^{かたぎ}氣質(1)

「老害」を語り合う 浅羽俊一郎

先日ある若者主催のオンライン・イベントに参加した。10人ほどの学生や若い社会人の中にシニアは私一人。鈴木洋一氏(代表)の問題提起と進行で話が進む。まず参加のルール。自己紹介では自分を何と呼んでもらいたい、さらに自分の代名詞「彼・彼女」か言わせる。LGBTへの気遣いだ。私は「あの人」にしてもらった。話のいとぐちは「老害とどう向き合うか」若者は率直に自分の意見を語り、世代のギャップへの意識から席を譲ると「怒られる」などの意見続出。私は自分が席を譲る時も譲られる時も笑顔で対応し、実は断る人も周囲の乗客も内心はその優しさに感謝していると、「君たちもいづれこっち側」とつけたした。アツと言うまの楽しい1時間半。意外だったのはある学生から「一度食事しませんか」と誘われたこと。(笑)因みに鈴木氏はY's「オープンフォーラム」の助人。YMCAをユースとシニアが出会える珍しい団体と評価している。2014年日本YMCA大会で基調講演。

「移住について考える」

小林道明

子どもの頃「移住」とは、外国へ移り住む事と理解していましたが、現代では外国に限らず国内どこに移り住んでも「移住」と呼んでいます。

隣の家に移り住む、同じ市町村内へ移り住む、県外へ移り住む、どこまでを移住というのか詳しい規定は無い様です。

納得のゆく言葉の意味をみんなで一緒に考えるのも楽しいですね。コロナ禍の今「除菌」「殺菌」「滅菌」「抗菌」「消毒」などについて語り合いも感染防止に役立つと思います。

「人生100年時代とYMCA」

上松寛茂

人生100年時代はもはや現実世界のものとなった。父は67歳で、母は96歳で旅立った。妻は65歳だった。私は2か月後の10月で76歳に。2019年10月1日現在で65歳以上の高齢者は28.4%だが、15年後の2036年には33.3%と3人に1人が65歳以上の高齢者で占められるという人口推計が示されている。その時私は生きていれば90歳。1男2女の末娘と生活を共にしているが、2016年に妻が亡くなった後のほぼ1年間一人暮らしだった。最近難聴がさらに進んだ。誰かと会話していても聞き返すことが度々。娘からは嫌がられている。埼玉ワイズの例会でのやり取りは補聴器を装着しても半分以上は聞き取れなくなり、ブリテン掲載の例会報告は水無瀬 隆造メンに執筆してもらっている始末。余生という言葉は好きではないが、加齢現象との闘いの日々が想定される。

今、障害者スポーツの祭典「東京パラリンピック競技大会」が開催中だが、障害を感じさせない、それを克服した活躍ぶりには驚嘆する。難聴程度で社会生活からドロップアウトしてただ終末を迎える孤独な隠居生活はとんでもないことのように感じてしまう。

幸い、地元紙にかつての仲間と連載コラムを共同担当、特別編集委員の肩書きをいただき、執筆陣メンバーの一人として取材・執筆で多忙な日もあり、恵まれている境遇もある。

YMCAは若者が主体の社会教育団体としてスタートした経緯があるが、既に高齢者向けのプログラムも用意されている。人生100年時代に対応したYMCAのプログラムが今、地域から求められている。YMCAの未来を切り開くカギにもなっていると確信する。

YMCAのサポーター組織のワイズメンズクラブは大半が高齢者で占められている。埼玉ワイズでも「心のふるさと歌声集会」は高齢者向けに企画され、埼玉YMCAの公式プログラムとして位置付けられているのはうれしい。新型コロナウイルス感染拡大防止で1年以上にわたる中断は残念だが、1日も早い復活を願うばかり。

高齢者には操作方法で戸惑う人が多い「わいわいパ

ソコンタイム」の復活も急務だ。手引書を持参、仲間同士でPCと格闘して楽しむ風景が待ち遠しい。



◆ メンバーたちの近況

小林メン

今月で80歳になった。歩行困難がだんだん悪化し転院、その病院で直ぐに病名が分かり、小脳萎縮の難病と診断された。治療方法なしとの事。進行を遅くする高価〔1粒約360円〕な錠剤を朝夕飲んでいきます。近所歩行とストレッチ運動を日課として体力低下防止を心掛けています。

三浦メン

ご無沙汰ばかりで、申し訳ありません。近況は、コロナの影響もあり厳しい状況ですが暑さに負けず頑張っております。最近の仕事、昭和初めの建物の建物の耐震診断を亀戸で行いましたし、現在は茨城県下妻市で建物地盤沈下の対策のため、6軒ほどの工事を9月初めまで行っております。この現場は、宇都宮線小山駅で水戸線下館乗り換えで関東常総線に乗り下妻駅に参ります。途中の駅名がなかなか面白く、一つ手前が大宝駅でお守りが駅で売っており中に大宝駅の入場券が入ったおまもりがうっていたので購入しました。しかし面白いのは、下妻駅にはカラオケボックス(2名まで)100円で1曲スイカも使える少し変わって楽しい駅です。ここでも相変わらず、地方の過疎化は、進んでいます楽しんで仕事に行っております。なかなか例会に出られませんが、皆様健康にご注意下さい。

衣笠メン

ほぼフル出勤の仕事、教会での役員奉仕、YMCAボランティア活動、ワイズ東日本区書記活動、その他活動でどこまで続くか、この体力。72歳奮戦中。

水無瀬メン

私はマンション内で、朝7時からのラジオ体操に参加しています。10年前は18名ぐらいが、今は10名に成りました。ラジオ体操はお互いの元気確認の場です。いつまで続くか、これからも頑張らねばと思う、今日この頃です。いつものメンバーが揃うとなんとなく一日が楽しく始まります。

浅羽メン

今期はチェンジ2022の後半戦だからか、区の役員達、先輩達が一生懸命なのが伝わってきます。コロナ禍で活動がままならない一方で、報告書の提出が増え多様に思えるのは私の錯覚でしょうか。

7月後半に「き咲きてらす」の立ち上げに成功しました。地元の有志の皆さんのやる気にこちらが押されています。

◆ YMCA 便り・

- ・7月3日 全国YMCA 発達支援事業担当者会 「こんな夜更けにバナナかよ」原作者の渡辺一史さんから「人と人はなぜ支え合うのか」をテーマに講演をいただいた。

- ・ 7月31日クローバーハイキング(高麗川～巾着田)
- ・ 8月9日-10日 はじめてのキャンプ
- ・ 8月24日-26日 わくわくチャレンジキャンプ

YMCAの小窓から

▽「自然は学びの場・成長の場」ステイホームと言われ続けて1年半。子どもも大人も体全体から喜びがあふれるような場面が失われているような気がします。高麗川ハイキングでは、川の水の冷たさ、道路で干からびた蛇との遭遇、ハイキング後のアイスキャンディー、その瞬間の子ども達の喜びや驚きの表情が、見ていて嬉しくなるくらい最高でした。この夏は、1年半ぶりに宿泊キャンプが再開できました。自然というフィールドは、人が育つ一番の場所だと実感しました。(太田 聡)



最近気になったNEWS

- ✓ 国内コロナウイルス感染者、12万人が自宅療養・入院調整中。医療逼迫で家族窮地に。
- ✓ 緊急事態宣言、9月12日まで延長。21の都道府県に適用。
- ✓ 8.24 東京パラリンピック無観客で開催。
- ✓ 8.15 アフガニスタン、米軍撤退でタリバン政権掌握。カブール空港は出国希望者殺到。

編集後記 埼玉クラブ浅羽年度。7月ブリテンを出し忘れ、8月合併号となりました。原稿ありがとうございました。というか、今後は投稿当たり前にしたいです。今号をたたき台にして、皆さんと当クラブらしいブリテンにし、情報と交流と広報のツールにしたいです。(SA)

Men's Photo Gallery

(文章で伝えにくい風景、イベント、お料理などを写真などで紹介する。提供者名は掲載。
スペースない場合は割愛)



思い出アルバム(浅羽)
1974年4月YMCA 東山荘で新入職員研修で同期と讚美歌をハモる。
(浅羽は右から2人目)

最近のアルバム

2021年4月、見沼市民田んぼで働いた後、里山で涼む。衣笠メント

